

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	世羅町立 世羅小学校		
学校長氏名	新庄 譲児	栄養教諭氏名	福間 智美
職員数	32名	児童・生徒数	365名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ・「お弁当 3・3コンクール」や「つくってみよう。自分の朝ごはん」の県主催のレシピコンテスト、世羅小版「夏休み親子で挑戦！朝食づくり！」「冬休み、我が家のみそ汁作り」に作品応募する家庭が多くなっている。多くの児童が保護者と一緒に食に関する体験を行っている。
- ・「栄養バランスを考えた朝食を作っている」と答えた保護者の割合は 26 年度から 27 年度にかけ向上した。（71.6%→74.2%）しかし、朝食を摂取している児童（ほぼ 100%）の割合に対しては低い状況が見られる。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・家庭と連携した食育を進めるため、各家庭で栄養のバランスを考えた食事作りに、親子で取り組む。
評価指数は、「栄養のバランス」を考えた食事作りやお弁当作り等に参加した家庭数の割合を、全家庭の 75% とする。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組 1】（テーマ） 作って食べる調理の体験を増やす取組

①ファミリークッキング

8月8日（月） 8月16日（火）の2日間で実施した。参加希望を募り、世羅町食生活推進員協議会の協力のもとに、親子で楽しく調理し、5つの力を付けることを目標にした。5つの力とは、①食べ物を選ぶ力 ②味がわかる力 ③料理ができる力 ④自分の体を大事にできる力 ⑤食べ物の命を感じる力 である。



②各料理コンテストに応募

①「ひろしま給食レシピ（県）」 ②「つくってみよう！自分の朝ごはん（県）」 ③「～たすきでつなぐ世羅の食育～レシピコンテスト（町）」 ④「わが家のみそ汁作り！（世羅小）」のレシピ応募を奨励し、家庭で調理する機会を増やした。また、児童のがんばりを称えるため、校内審査を行い表彰を行った。

③クッキングクラブ

4年生以上が所属するクラブ活動の中で、希望者を対象に食生活推進員協議会の方を講師に招き、おやつなどを調理した。

④朝会でのとうもろこしの皮むき体験

世羅町教育委員会、生産者と連携し、全校で1人1本のとうもろこしの皮むきを体験し、その日の給食で食べた。地場産物への理解を深める上でよい体験となった。



【取組2】(テーマ) 地場産物を活用して、地域への理解を深める

①毎月19日「たのしく食べよう～せらのふるさと給食」

地域・生産者・学校・給食センターがつながり、町全体での食育を進める取組であり、世羅町で生産されている旬の農産物への理解を深める機会となっている。

- ・世羅の旬の食材を使ったメニュー（ふるさと給食）を提供する。
- ・旬の食材の指導用資料を活用し各学級で指導する。
- ・ふるさと給食後に各学級で感想を書く。（感想は給食センターで取りまとめ、生産者におたよりとして届ける。）



②地域の方を講師に招いての学習

学年	日時	教科	招聘した方	内 容
1年	11/22	生活科	大根農家	ぐんぐんのびろ！ 食べ物の大切さを知ろう
2年	12/12	学活	れんこん農家	れんこん作りの秘密
3年	10/28	総合	キャベツ農家	世羅の町を元気にしよう
5年	12/7	家庭科	ピーナッツ農家	生産者の工夫や努力を知ろう

地域の生産者を講師に招き、世羅町の農産物に関心を持たせ、地域への理解を深める。また、旬の食材を知ることで、調理への意欲を持たせる。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- ・親子で調理して食べる体験を増やすため、レシピ応募とキャッチコピーへの応募を奨励した。広島県の特産品への知識を深める機会ともなっている。
- ・「ひろしま給食の日」を町全体の取組とするため、指導用資料を作成し、世羅町教育委員会から町内全学校へ配布した。また、産直市にポスターを掲示し、町民への啓発を図った。
- ・保護者がたくさん参加する行事である校内マラソン大会で、「タコタコライス」を試食してもらった。
- ・夏休み中に行われる「ファミリークッキング」のメニューに「豚肉と広島食材たっぷりの炒め物」を加え、

広島食材への関心を持たせるきっかけづくりを行った。

- ・5年生親子会でタコライスを作った。ごはんは、栽培体験で作った米を使い、収穫の喜びや栽培の苦勞を体験することができた。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

- ・「栄養のバランスを考えた食事作り」に参加した家庭は延 316 家庭であった。目標は全家庭数の 75% としていたが、138/249 家庭で 55.4% となった。
- ・「～たすきでつなぐ世羅の食育～レシピコンテスト（世羅町）」では、122 作品の応募があり、1年生から3年生の部、4年生から6年生の部で6名児童が最優秀賞、優秀賞を受賞することができた。
- ・地場産物への理解を深める取組を行うことにより、世羅の農産物の良さを理解している児童が多くなってきた。

【課題】

- ・レシピ応募に積極的な家庭と消極的な家庭があり、積極的な家庭は、重複して応募している。応募していない家庭が固定化している現状がある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・世羅町は地場産物が豊富で各家庭においても、いろいろな野菜等が栽培されている。児童に周りの畑や田への興味を持たせ、作って食べる体験を増やす。
- ・校内メニューコンテストを行う取組において、家庭で楽しく行える調理部門を設定する。